



SDGs ACTION BOOK 2022



**Exploring New Horizons,  
Achieving Sustainable Impact**



# 持続可能な社会の実現に向けて、技術の力で新たな価値を創造し続ける

### 変革・進化を加速

現在、NTTコムウェアは、大いなる変革の時を迎えています。2022年1月、私たちはNTTドコモ、NTTコミュニケーションズと共に新ドコモグループとしてスタートをきりました。7月にはドコモ・システムズ株式会社と統合、ドコモ・データコム株式会社をNTTコムウェアのグループ会社に迎え、新コムウェアグループが発足しました。

新たな仲間を加えた新NTTコムウェアは、これまで以上に経営資源の集中を図り、お客さまへの革新的なサービスの迅速な提供とDXの加速を実現します。

この度、NTTコムウェア新体制として迎えた25周年を機に、社内外に展開している声明の見直しを行いました。NTTコムウェアの存在意義、大切にしたい価値観、ありたい姿を表現した「コムウェア・アイデンティティ」、そしてNTTコムウェアがどのような会社であるかを端的に表した「コーポレートメッセージ」です。これらは社員と共に策定したものであり、改めてNTTコムウェアの想いを発信していきます。

また、「コムウェア・アイデンティティ」で表したありたい姿を実現するため、「NTTコムウェア新宣言」と「NTTコムウェアグループサステナビリティ活動方針」を策定しました。「コムウェア新宣言」は2027年度までにNTTコムウェアが取り組む具体的な事業の方向性を示すものであり、「NTTコムウェアグループサステナビリティ活動方針」は事業と密接不可分なサステナビリティ活動についてのNTTコムウェア独自の姿勢を定めるものです。

経済的価値を生み出す事業活動に環境や社会課題の解決を組み込み、新たな価値の創造を通じて持続可能な社会を実現すべく、経営層以下、新NTTコムウェアの一人ひとりが今後の使命を認識し進化していきます。

### 変わらない使命を遂行

進化を加速する私たちですが、変わらない使命があります。それは、ソフトウェア開発力をはじめとした技術の力で新たな価値を創造し続けることです。

現在、世界は激動の最中にあります。社会面ではICTやAIの利用拡大にともなうDXの浸透や新常態に即した新たな社会の仕組みづくりの本格化、環境面では低・脱炭素、高循環社会の実現に向けたイノベーションおよびインフラ刷新への要請など、SDGsに直結する取り組みは大きなうねりとなっています。

私たちはこれからも、皆さまと共に歩み、ドコモグループさらにはNTTグループ各社とのシナジーを発揮し、「あなたと世界を変えていく。」ために、社会課題に対する価値創造に全員で挑戦していきます。



NTTコムウェア株式会社  
代表取締役社長  
社長執行役員

黒岩真人

Masato Kuroiwa

# NTTコムウェアの新たな声明とサステナビリティ

NTTコムウェアは、創業25周年を迎えた2022年9月、社内外に展開している声明の見直しを行いました。

NTTコムウェアの存在意義、大切にしたい価値観、ありたい姿を表現した「コムウェア・アイデンティティ」、そしてNTTコムウェアがどのような会社であるかを端的に表した「コーポレートメッセージ」。これらは社員と共に策定したものであり、改めてNTTコムウェアの想いを発信していきます。

また、「コムウェア・アイデンティティ」で表したありたい姿を実現するため、「コムウェア新宣言」と「NTTコムウェアグループサステナビリティ活動方針」を策定しました。「コムウェア新宣言」は2027年度までにNTTコムウェアが取り組む具体的な事業の方向性を示すものであり、「NTTコムウェアグループサステナビリティ活動方針」は事業と密接不可分なサステナビリティ活動についてのNTTコムウェア独自の姿勢を定めるものです。

これからも、日本の通信インフラを支え、人びとの暮らしを変えていきたいという想いを胸に、お客さまに最適なソリューションを提供し続けます。

## コムウェア・アイデンティティ

私たちは、未来を技術の力でデザインし、  
心がつながる豊かな世界を実現します。

### 解説

誰もが感動・喜び・安心を感じられる  
豊かで持続可能な世界の実現をめざして  
私たちは、ソフトウェア開発力をはじめとした技術の力で  
あらゆる人・もの・コトが自由につながる  
人と社会にやさしい未来を描き、カタチにしていきます。

日本の社会インフラを支えてきた品質と信頼。  
私たちは、これまで培ってきた強みを礎に  
変化し続け、自らの枠を超え  
イノベータティブに取り組むプロフェッショナル集団として  
お客さまに、世界に、新たな価値を提供し続けます。

## コーポレートメッセージ

心をつなぐ、未来をつくる

## コムウェア新宣言

NTTグループの総合ICT事業をソフトウェア技術で牽引し、  
あなたと世界を変えていくソリューションビジネスパートナー



コムウェア・アイデンティティ <https://www.nttcom.co.jp/corporate/identity/>

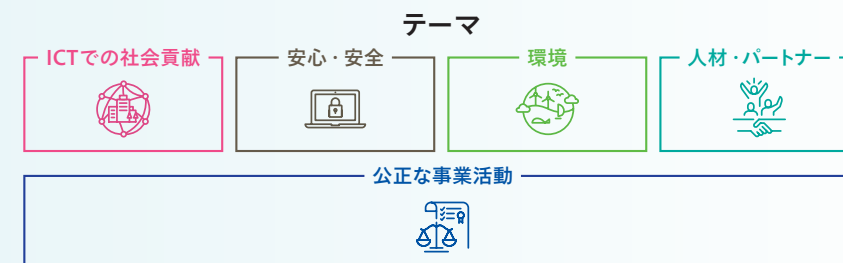


コムウェア・アイデンティティおよびコムウェア新宣言の果たす役割についてはP4もご参照ください

## NTTコムウェアグループサステナビリティ活動方針

NTTコムウェアグループは、自らのありたい姿\*を実現するため、社会課題に常に意識を向け、社会からの期待に応え続けます。私たちは、公正な事業活動を推進しつつ、重視するテーマ・マテリアリティを定期的に見直し、先見性・独自性ある目標を設定、透明性ある開示を実施します。

\*「自らのありたい姿」は「コムウェア・アイデンティティ」と同義です



## マテリアリティ(重要課題)

サステナビリティ活動方針のテーマ「ICTでの社会貢献」「安心・安全」「環境」「人材・パートナー」とそれを支える「公正な事業活動」に対して、10のマテリアリティ(重要課題)を定めました。

テーマ	マテリアリティ(重要課題)
 <b>ICTでの社会貢献</b>	ICTでの社会貢献
 <b>安心・安全</b>	社会インフラ品質の向上   堅牢なセキュリティ環境
 <b>環境</b>	脱炭素社会   資源循環・生物多様性
 <b>人材・パートナー</b>	多様性確保   人材育成   ビジネスパートナー協働
 <b>公正な事業活動</b>	人権尊重   倫理規範の浸透・徹底

## 国連SDGsへの賛同

NTTコムウェアグループは2016年度よりSDGsに貢献する取り組みを推進しています。サステナビリティ戦略に加味し、私たちの事業特性を活かしたインパクトを発揮するべく、ステークホルダーの意見も交えつつ各部門が連携して検討・推進しています。

## 全員で、戦略的に行動する

経済的価値を生み出す事業活動と環境や社会課題の解決といったサステナビリティ活動を中期的に達成することで、コムウェア・アイデンティティの実現を長期的にめざします。



＊「新ドコモグループ行動原則」とは新ドコモグループのブランドスローガン「あなたと世界を変えていく。」を実現するため大切にしたい3つの行動です。



# サステナビリティ戦略ハイライト

## IOWN® 構想への貢献を加速するNTTコムウェア

あらゆるインフラがICTで制御された社会、すべての人が安心・快適に暮らせる日常と経済の仕組みを、持続可能な形で実現する。NTTグループは現在、革新的な技術によりインフラの限界を超え、あらゆる情報をもとに個と全体との最適化が進んだ社会を創るため、IOWN® (Innovative Optical and Wireless Network) 構想を推進しています。NTTコムウェアも同構想の実現に向け、挑戦を加速しています。

### ① オールフォトニクス・ネットワーク(APN)

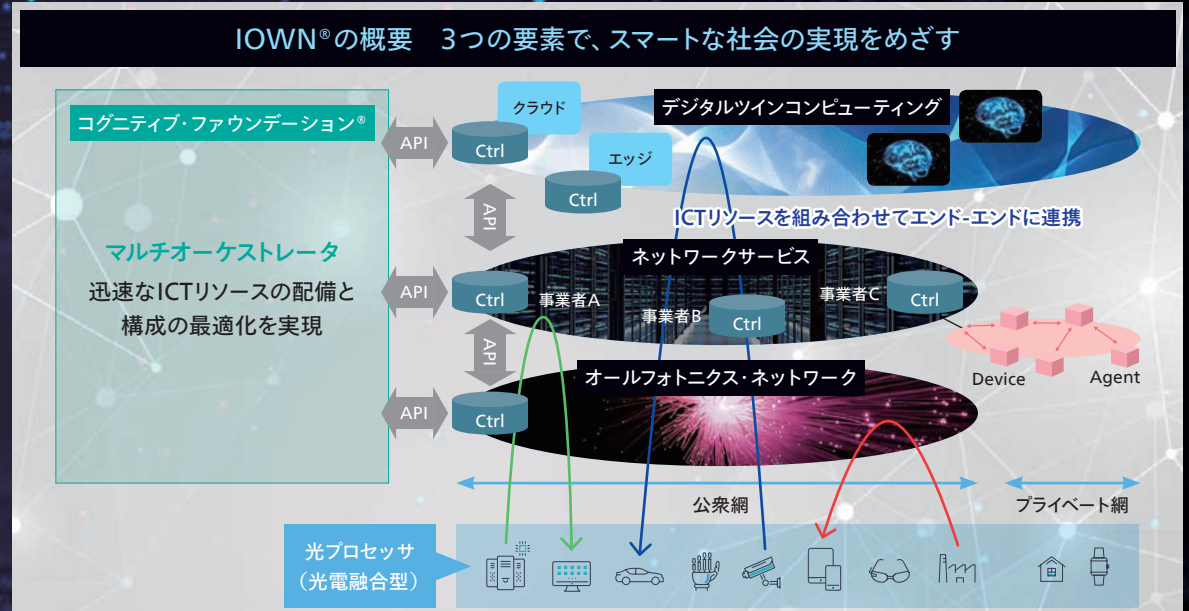
ネットワークから端末の内部まで、すべてに光通信の技術を導入し、処理能力の向上と消費電力の大幅抑制を図るものです。

### ② デジタルツインコンピューティング(DTC)

デジタル世界に仮想の実世界を作成し、より高精度なインフラシミュレーションや未来予測などを実現する、新たなサービス・アプリケーションです。

### ③ コグニティブ・ファウンデーション®

ICT化された社会のあらゆるものをつなぎ、その制御を実現することで、ICTリソースの配備と構成の最適化を図る仕組みです。



### IOWN® 構想とは

AIやIoTの進化により、社会インフラの革新は加速しています。より正確に、きめ細かく、多様なニーズに応える必要が高まる一方で、膨張を続けるネットワーク通信量や電子処理速度の限界、増加し続ける情報処理のための消費電力といった課題にも対処する必要があります。

IOWN® 構想とは、よりスマートな社会(スマートワールド)の実現に向け、これまでの情報通信システムを変革し、現状のICT技術の限界を超えた「未来の情報通信基盤」の実現をめざしています。同構想は大きく3つの要素で構成されています。

# IOWN

IOWN®の詳細は、右記でご覧いただけます。 NTT 研究開発 <https://www.rd.ntt/iown/>

## 加速する、NTTコムウェアの挑戦

NTTコムウェアは、2020年7月に設立した「IOWN推進室」から、2022年7月に「IOWN推進部」として大規模な組織強化を行い、これまで培ってきたシステム開発やネットワーク構築・運用のノウハウを活かし、IOWN®構想に基づくスマートな社会の実現に向け、中核となる技術の開発および活用、ビジネスの展開・促進を開始しています。

### ① APN活動事例 スーパーホワイトボックスの制御技術の確立に向けた実証実験への参画

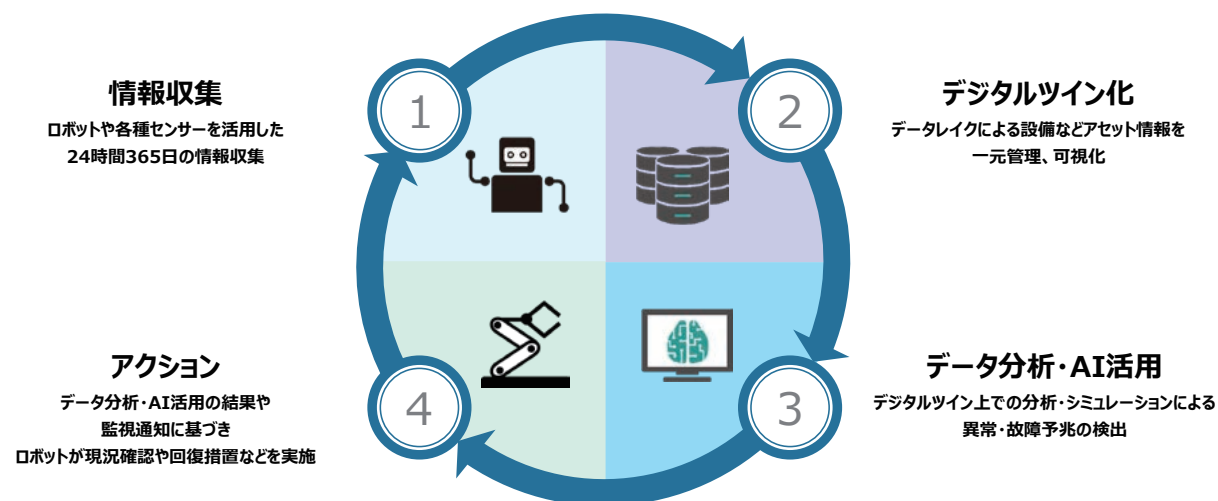
現在、情報通信システムは、サーバー、ルーター・スイッチ、ストレージといった複数のハードウェアをつなぎ合わせて構成されています。それらの内部には多くのケーブルや基板といった電気回路があり、情報処理速度と低炭素性の制約となっています。これらをすべて光通信化し、CPUやメモリなどのリソースを光で柔軟に組み換える「スーパーホワイトボックス(SWB)」の実現を、IOWN®はめざしています。この実現はAPNの性能目標「電力効率100倍」に大きく寄与します。

NTTコムウェアは、SWBの制御技術の確立に向けた実証実験に参加し、とくにネットワークインテグレーションの専門家として、SWBのソフトウェア制御の実証や、新たなオペレーションシステムの検討を進めています。

### ② DTC活動事例 ロボットとデジタルツイン活用による、データセンター運用業務の省人化実証実験

ロボットやAIの進化により、データセンター(DC)におけるロボット活用の取り組みは増えています。NTTコムウェアはDTCの活用例としてDCの完全無人化をめざしています。その実現に向け、2022年3月より、株式会社HBAと協働した実証実験を開始しました。

HBAの自動巡回ロボット「HSR(HBA SMART ROBOT)」を活用しDCの運用状況把握や障害検知時の回復措置を行い、収集されたデータや稼働状況をNTTコムウェアのデータ分析・活用基盤「Smart Data Fusion®」などのデジタルツイン上にて蓄積・分析し、DC運用業務省人化のライフサイクルについて検証を進めています。





## 情報化された次世代農業への挑戦

NTTコムウェアグループは、さまざまな産業で、より効率的な経済活動に資するソリューションを開発、提供しています。その注力領域のひとつが農業であり、ICTおよびデータ分析に長らく蓄積してきた知見を活かし、専門家や農家の皆さまと共に実証的なプロジェクトを各地で展開し、次世代の農業の実現に挑戦しています。

### 高収量、高栄養価を効率的に実現した「BLOFware®.Doctor」

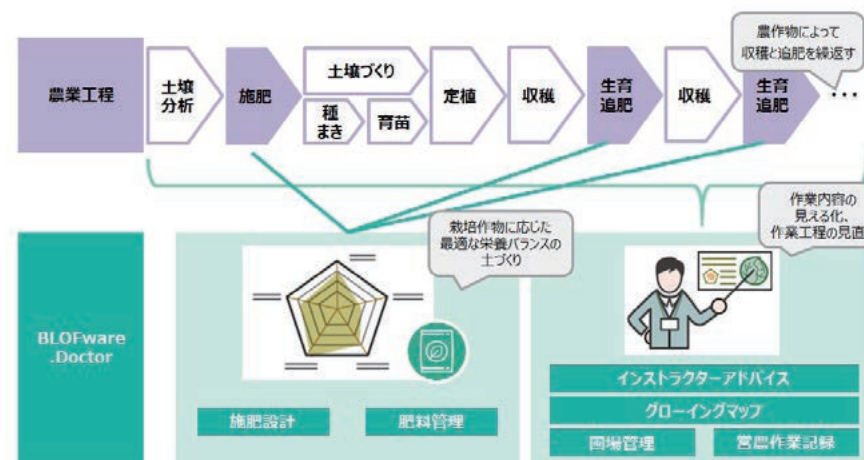
「BLOFware®.Doctor」は、NTTコムウェアが株式会社ジャパンバイオフィームと共同で開発した営農支援クラウドサービスとして2020年よりサービスを開始しました。全国の農業協同組合や農業法人、個人農家へと提供する同サービスは、「土づくり」に着目して高品質・高栄養価・高収量な農作物を科学的・論理的に生産するBLOF®理論\*に基づく有機栽培を簡単に実践できるようになります。水稻や野菜、果物など作物ごとの土壌ミネラルバランスやpHの計算ロジックを組み込み、農業工程ごとにきめ細かい管理・支援をクラウド

上で提供するものです。

NTTコムウェアは引き続き、支援メニューの拡充・高度化や自動化などを進め、多彩な農業生産物へと営農支援クラウドサービス「BLOFware®」シリーズの拡大を図り、食糧問題への貢献は勿論、有機栽培ならではの環境負荷が低く自然と調和した農業の普及にも取り組みます。

\* Bio Logical Farming (バイオロジカルファーマーミング) 理論の略。アミノ酸、ミネラル、土壌の3つの分野に分けて科学的に営農することで、高品質・高栄養価・高収量・安定生産を実現する有機栽培技術。

「BLOFware®.Doctor」がサポートする農業工程



2

飢饉を  
ゼロに

SDG 2

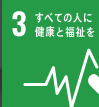
飢饉をゼロに

社会の期待 地球上の耕作可能地は有限です。一方で各国の発展にともなう人口増加と生活水準の向上、さらには気候変動問題の影響などもあり、近い将来、世界的に食糧不足が発生する懸念が高まっています。SDG2は、食糧の供給力向上と有効利用促進に世界の全員が取り組み、食糧問題の解決へと協働を加速するよう求めています。



# 人びとの健康増進に向けた、協働の推進

NTTコムウェアグループは、ICTおよびAI・データサイエンスの専門家として、それら技術を用いた社会課題解決に取り組んでいます。医療・福祉への技術展開においては今まで培ってきた技術を応用し、健康増進へとイノベーションの力で貢献するとともに、ヘルスケア分野に挑戦しています。



SDG 3

すべての人に健康と福祉を

**社会の期待** 世界中の人が健やかに暮らせる社会をつくることは、人類共通の願いです。現在、健康や福祉の課題が依然として多く存在し、治療が困難な病気への対処法や、医療・保健サービスの十分な提供などが急がれます。SDG3は、それらの解決に、より強い協働を唱えており、企業も医療・研究機関などと連携を強めています。

## 糖尿病治療にAI技術を活かす、実証研究

糖尿病は世界的に患者数も多く、その適切な治療法の実現が長年にわたり模索されている病気です。中でも糖尿病患者にインスリンを投与すべきかどうかという投薬判断は、細心の注意を要する課題です。NTTコムウェアは、新潟大学との産学連携協定の一環として同大医学部と協働し、糖尿病治療へのAI活用に取り組んできました。

チームは、診療記録データを活用し、専門医が初期治療にインスリン療法を選択した患者さんの記録をAIに機械学習させ、

初期治療にインスリン療法が必要かの判断能力について、非専門医との比較も含めて検証しました。AIはインスリン療法が必要か専門医と同等レベルの判断が可能であり、診療現場における重要な治療方針決定に関して支援が可能であることを示しました。その成果は医学系論文誌に掲載され、注目を集めています。

### AIを活用した投薬判断支援



患者のバイタルデータ



診療記録データ

AIによる  
投薬判断モデル作成



投薬判断への  
支援情報の提供



## 働く人の安全と、産業の効率性を両立する、 デジタルトランスフォーメーション(DX)

NTTコムウェアグループは、かねてより、ICTを活用した製品・サービスで、経済活動の変革に貢献することをめざしています。中でも、より安全で確実、円滑な現場業務を、高い生産性のもとで実現するDXの提案にも力を入れており、既にSDG8に貢献しうる先進的なソリューションを開発・提供しています。

### 建設現場の「欲しい」を形にした「ゼネコンラボ®」

建設業の現場では、近年、高齢化や人手不足、多国籍化、気候変動も踏まえた労働安全といった多くの課題を抱えており、現場プロセス全体の効率化、情報共有の円滑化に資するDXが強く期待されています。この観点に立ち、NTTコムウェアは「ゼネコンラボ®」を開発、提供を開始しています。

同サービスは、「建設現場」に関わる「人」「情報」「時間」をデジタル技術でつなぐクラウドサービスです。「人をつなぐチャット活用」「情報をつなぐドキュメント配信」「現場作業からの報告を自動で蓄積するワークルーム」などのさまざまなコラボレーションを通じて情報連絡や共有にかかる時間をより短く、スムーズに実現します。

#### 「ゼネコンラボ®」の提供するDX

**「建設現場」に関わる「人」「情報」「時間」を  
デジタル技術でつなぎ、さまざまなコラボレーションを通じて  
情報連絡や共有にかかる時間をより短く、スムーズに実現します**



★ 機能は順次拡大予定

8

働きがいも  
経済成長も

SDG 8

働きがいも 経済成長も

**社会の期待** すべての人が健康かつ働きがいを持って仕事に臨める環境の実現は、生産的で活力ある社会の実現に不可欠です。SDG8が、生産性の継続向上とディーセント・ワークを、共に重要な目的に位置づけている理由です。with/afterコロナの日常・ビジネス環境の中、その重要性は一層増しており、ICT企業のイノベーションに期待が高まっています。



## ICTとデジタル技術を積極活用した、 社会インフラ革新への貢献

NTTコムウェアグループは、「コムウェア新宣言」で「NTTグループの総合ICT事業をソフトウェア技術で牽引し、あなたと世界を変えていくソリューションビジネスパートナー」を掲げ、挑戦を加速しています。とくに通信設備の維持管理やデータマネジメント、データサイエンスで培った技術を統合し、さまざまな社会インフラに革新をもたらす試みを推進しています。

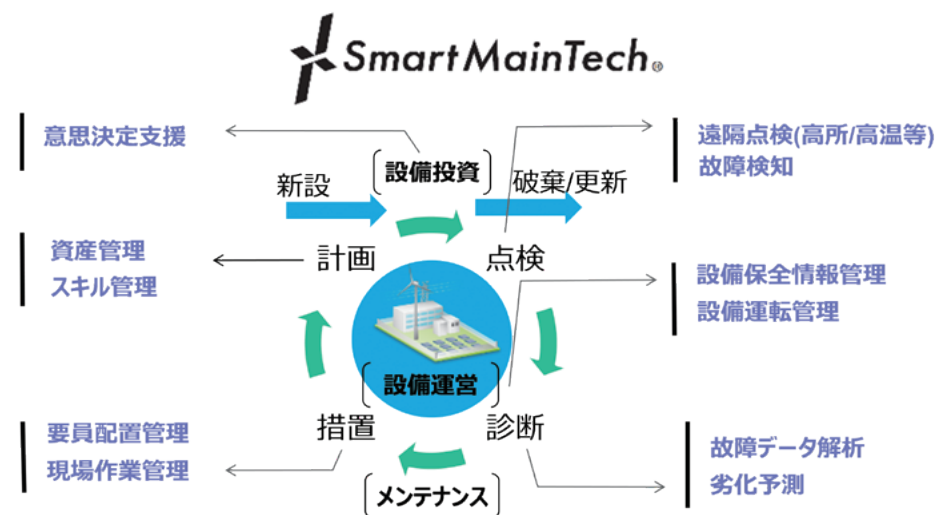
### 社会インフラのサステナビリティ向上へ貢献する「SmartMainTech®」

「SmartMainTech®」は、名が示す通り、NTTグループがめざす「スマートワールド」実現の一翼を担う、インフラの設備メンテナンス&オペレーションのDXサービスです。設備投資から運用、更新といったインフラのライフサイクルに即した包括的なDX提案が特徴です。

デジタルツインを活用した設備管理「Smart Data Fusion®」、

AI施工検査「Infratector® typeC」、そして現場管理タスクの一括管理「フィールドコラボ®」などで構成され、通信業界の工事現場や、太陽光や風力発電といった再生可能エネルギー業界での発電所運営、道路や河川といった土木インフラ分野での点検や安全確保などで活用を進めており、社会インフラのサステナビリティ向上への貢献に取り組んでいます。

インフラのライフサイクルに即した、「SmartMainTech®」



9

産業と技術革新の  
基盤をつくろう

SDG 9

産業と技術革新の基盤をつくろう

社会の期待

SDG9は、人びとが将来にわたり、先進的で快適な生活を送ることができる社会を実現するために、イノベーション(技術革新)を社会全体で推進することを唱えています。とくにICT企業に対しては、社会やコミュニティに改善インパクトをもたらす先進技術の開発とその実用化を通じ、主体的に貢献することが期待されています。

## インフラへのさらなるICT・AI活用で、 各地の活力ある街づくりに貢献

今やICTは日常生活や経済活動に深く浸透しています。その力を先進的で活力ある街づくりへと活かす試みが、日本各地で続いています。NTTコムウェアグループは、NTTグループ各社との協働のもと、高度なICTとAIの活用を通じて地域活性化に寄与する仕組みを提案し、各地で経済基盤の刷新を推進しています。

### 「LIKEUP UXエンジン®」をNTTグループ各社と協働し積極展開

NTTコムウェアが独自開発した「LIKEUP UXエンジン®」は、ユーザーのリアルタイムなシーン・状況と随時変化する多様な価値観を捉え、望ましい体験をリアルタイムに提案するとともに未来のシーンやストーリーまでを提案します。

「LIKEUP UXエンジン®」の技術を活用し、NTTコミュニケーションズと共同で企画したモバイル観光ナビ「FUN COMPASS®」は、最適な観光を実現するための情報を提供し、観光客の滞在期間

長期化や消費意欲の向上を促す観光DXを実現します。2022年7月には、観光産業活性化を目的に「FUN COMPASS®」を活用したモバイルナビによる実証事業を沖縄県で行い、観光客の周遊性が向上しました。

NTTグループ各社のサービスとUXエンジン®の融合により、健康・美容などのシーンでも新たな価値創出を図り、生活シーンにおける社会課題の解決に貢献していきます。



SDG 11

住み続けられる まちづくりを

**社会の期待** SDG11は、人びとの安全で快適な生活を実現するため、サステナブルでレジリエント(強靱)な生活基盤インフラの社会全体での構築を重視しています。依然としてさまざまな社会課題が存在する中、その改善に貢献しうるイノベーションの開発、さらにはサービス化に、社会の期待が高まり続いています。



#### 自分好みのサジェストで 充実した旅を

訪問が集中する人気スポットだけでなく、知る人ぞ知るローカルスポットなど地域全体の魅力を発信。観光客一人ひとりの周遊性が向上し、地域活性化に貢献します。



#### アクシデントも 出会いのきっかけに

悪天候などの急な予定変更でも現在地や時間などのリアルタイムな状況を考慮し、最適なスポットをサジェスト。まだ知らなかった沖縄と出会う機会を創出します。



#### 地域の新しい魅力を発見

最旬スポットから伝統文化まで幅広くサジェストされ、自分の価値観に合った旅体験ができます。地域の多様な魅力に触れ、何度も訪れるリピーターを増やします。



## さらに広がるアクション ～もっと知りたい方へ～



NTTコムウェアグループは、  
今回ご紹介した事例以外にも、  
多くの取り組みで  
SDGsへ貢献しています。

4 質の高い教育を  
みんなに



### 次世代人材を育む、データサイエンス講義の実施

SDG4: 質の高い教育をみんなに

新潟大学との連携協定に基づき、2019年度よりデータサイエンス関連の授業提供を継続的に実施しています。2022年6月に実施したNTTコムウェア社員による講義には、修士課程の約100名が参加しました。前年に続きオンラインでの実施となりましたが、データサイエンスの歴史、ならびに現在のビジネスニーズと各種手法に関する講義に対し活発な質疑が寄せられ、参加者の今後の研究ならびに進路検討に貢献しました。



8 働きがいも  
経済成長も

### オフィスが提供する価値の再定義

オフィスが提供する価値を「リアルコミュニケーション」と「業務に応じた環境の提供」と再定義し、新たな働き方・交流の仕組みを提供するオフィスの整備を進めています。

オフィスにはコラボレーションエリア、Web会議用エリア、集中エリア、そしてリラックスできる場所としてCaféエリアとさまざまなエリアを設け、その時々でのシチュエーションに適したエリアを各自選択することができます。

ここでさまざまな検証を行い、得られたノウハウに基づいて働きがいや業務生産性の追求、全社のフロア最適化などを進めていきます。



SDG8: 働きがいも 経済成長も

7 エネルギーをみんなに  
そしてクリーンに

### グリーン電力の利用加速

NTTグループの新たな環境エネルギービジョン「NTT Green Innovation toward 2040」が掲げる目標のひとつ「2040年度までにカーボンニュートラルの実現」を踏まえ、NTTコムウェアも事業の脱炭素化を本格化しています。2020年度より再生可能エネルギー電力の使用を開始し、2021年度は使用量20百万kWh以上という目標に対し、実績はこれを上回る28百万kWhでした。



SDG7: エネルギーをみんなにそしてクリーンに



自社のサステナビリティ戦略に関連させ主体的に貢献するもの、製品・サービスを通じてお客さまと共に貢献をめざすものなど、詳細な情報については、下記のサイトもご覧ください。



#### サステナビリティサイト

ビジョン・戦略に即した継続的な取り組みなど、NTTコムウェアグループのサステナビリティに関する情報を紹介しています。

 <https://www.nttcom.co.jp/csr/>



#### サービス紹介サイト

お客さまやエンドユーザーの皆さまと共に、より良い社会の実現をめざす、多彩な製品・サービス群を紹介しています。

 <https://www.nttcom.co.jp/solution/>



# NTTコムウェア

\* 人名、団体名、公共機関名などは原則として敬称を略しています。

\* 「LIKEUP」「UXエンジン」「SmartMainTech」「Infratector」「Smart Data Fusion」「フィールドコラボ」「ゼネコンコラボ」は、NTTコムウェア株式会社の登録商標です。

\* 「FUN COMPASS」は、NTTコミュニケーションズ株式会社の登録商標です。

\* 「IOWN」「コグニティブ・ファウンデーション」「デジタルツインコンピューティング」は日本電信電話株式会社の商標または登録商標です。

\* 「BLOFware」「BLOF」は株式会社ジャパンバイオフィームの登録商標です。

\* その他、記載されている社名、商品名などは各社の商標または登録商標である場合があります。

## お問い合わせ窓口

NTTコムウェア株式会社

総務人事部 サステナビリティ推進室

〒108-8019 東京都港区港南1-9-1

NTT品川TWINSアネックスビル



<https://www.nttcom.co.jp/csr/>

2022年12月発行（次回発行2023年12月予定）